第１回上越市観光振興計画策定検討委員会
配付資料

○　次第

○　委員名簿

○　座席表

○　上越市観光振興計画策定検討委員会設置要綱

○　【資料１】上越市を取り巻く観光の現状（各種データ）

○　【資料２】上越市第五次観光振興計画の振り返り

○　【資料３】論点メモ（本日ご意見いただきたいこと）

○　【資料４】今計画策定にあたっての基本的な考え方と今後の進め方（案）

○　【参考資料１】上越市第五次観光振興計画の各取組の進捗状況（H31.3 時点）

○　【参考資料２】上越市の主な観光コンテンツ

以上

第１回　上越市観光振興計画策定検討委員会

日時　令和元年８月27日（火）午後２時～
会場　町家交流館高田小町　多目的ホール

次　　第

１　開会

２　委嘱状交付

３　挨拶

４　委員紹介

５　正副委員長の互選

６　議事
(1) 上越市を取り巻く観光の現状

(2) 今計画策定にあたっての基本的な考え方と今後の進め方（案）

(3) 意見交換

７　その他

８　閉会

上越市観光振興計画策定検討委員会
委員名簿

（順不同、敬称略）

丁　野　　朗	東洋大学大学院　国際観光学部　客員教授
平　原　　匡	株式会社北信越地域資源研究所　代表取締役
中　牧　俊　明	国土交通省北陸信越運輸局　観光部長
齋　藤　光　雄	新潟県上越地域振興局　企画振興部長
板　垣　　朗	上越商工会議所　事務局参事
南　　博　幸	公益社団法人上越観光コンベンション協会　常務理事
高　原　香　純	百年料亭宇喜世　仲居
渡　辺　　花	上越市立水族博物館うみがたり　職員
岡　田　龍　一	特定非営利活動法人中郷区まちづくり振興会　理事長
亦　野　潤　一	えちご上越農業協同組合あるるんの杜　職員
今　井　圭　介	株式会社岩の原葡萄園　営業・マーケティング部長代理
上　原　みゆき	公募市民
笹　川　枝里子	公募市民
山　下　智　史	株式会社ＪＴＢ新潟支店　観光開発プロデューサー
北　嶋　宏　海	えちごトキめき鉄道株式会社　常務取締役総務企画部長

（事務局）

上越市　産業観光交流部　観光交流推進課

第１回上越市観光振興計画策定検討委員会　席次

令和元年8月27日（火）午後2時から
町家交流館高田小町

	東洋大学大学院国際観光学部 客員教授 丁野　朗　様	株式会社北信越地域資源研究所 代表取締役 平原　匡　様

えちご上越農業協同組合 あるるんの杜　職員 亦野　潤一　様	国土交通省北陸信越運輸局 観光部長 中牧　俊明　様
株式会社岩の原葡萄園 営業・マーケティング部 部長代理 今井　圭介　様	新潟県上越地域振興局 企画振興部長 齋藤　光雄　様
公募市民 上原　みゆき　様	上越商工会議所 事務局参事 板垣　朗　様
公募市民 笹川　枝里子　様	公益社団法人 上越観光コンベンション協会 常務理事 南　博幸　様
株式会社ＪＴＢ新潟支店 観光開発プロデューサー 山下　智史　様	上越市立水族博物館 うみがたり 職員 渡辺　花　様
えちごトキめき鉄道株式会社 常務取締役総務企画部長 北嶋　宏海　様	特定非営利活動法人 中郷区まちづくり振興会 理事長 岡田　龍一　様

事務局
（産業観光交流部観光交流推進課）

傍聴席

報道席

上越市観光振興計画策定検討委員会設置要綱

（設置）

第１条　本市における観光振興の施策を統合的かつ計画的に推進するために定める上越市観光振興計画の策定に必要な事項を検討するため、上越市観光振興計画策定検討委員会（以下「検討委員会」という。）を置く。

（所掌事項）

第２条　検討委員会の所掌事項は、次のとおりとする。

⑴　市の観光の現状及び課題に関すること。

⑵　市の観光の目指す姿及び基本的な方向性に関すること。

⑶　市の観光振興の施策及び取組に関すること。

⑷　その他市長が必要と認めること。

（組織）

第３条　検討委員会は、次に掲げる人のうちから市長が委嘱する１５人以内の委員をもって組織する。

⑴　観光振興に関する識見を有する人

⑵　関係行政機関の職員

⑶　関係団体の代表者

⑷　公募に応じた市民

⑸　その他市長が必要と認める人

（委員の任期）

第４条　検討委員会の委員の任期は、委嘱の日から平成３２年３月３１日までとする。

（委員長及び副委員長）

第５条　検討委員会に委員長及び副委員長１人を置く。

２　委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。

３　委員長は、会務を総理し、検討委員会を代表する。

４　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第６条　検討委員会の会議は、委員長が議長となる。

２　会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。

３　会議の議事は、出席した委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（関係者の出席等）

第７条　検討委員会は、調査又は審議に必要があると認めるときは、関係者の出席を求めて意見若しくは説明を聴き、又は関係者に対して必要な資料の提出を求めることができる。

（庶務）

第８条　検討委員会の庶務は、観光交流推進課において処理する。

（その他）

第９条　この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は、検討委員会が定める。

附　則

（実施期日）

１　この要綱は、平成３１年４月１日から実施する。

（この要綱の失効）

２　この要綱は、平成３２年３月３１日限り、その効力を失う。

【資料１】

上越市を取り巻く観光の現状（各種データ）

目次

１．国全体の現状　Ｐ３　～１７
２．新潟県及び上越市の概況　Ｐ１８～２４
３．新潟県の詳細　Ｐ２５～３２
４．上越市の詳細　Ｐ３３～４２
５．新潟県及び上越市の訪日外国人旅行者の状況　Ｐ４３～５９

1. 国全体の現状

1-1　政府の取り組み

平成15年	１月	小泉総理が「観光立国懇談会」を主宰
（2003年）	４月	ビジット・ジャパン事業開始
		観光立国懇談会報告書　「住んでよし、訪れてよしの国づくり」
平成19年	１月	観光立国推進基本法施行（議員立法）
（2007年）	６月	観光立国推進基本計画（閣議決定）
平成20年	10月	観光庁発足（麻生内閣）
（2008年）		
平成24年	３月	観光立国推進基本計画改定（閣議決定）
（2012年）		
平成25年	３月	観光立国推進閣僚会議設置（安倍内閣）
（2013年）	６月	「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」（観光立国推進閣僚会議決定）
		「日本再興戦略 -JAPAN is BACK-」（ 閣議決定）
平成26年	６月	「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2014」（観光立国推進閣僚会議決定）
（2014年）		「日本再興戦略」改定2014（閣議決定）
平成27年	６月	「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2015」（観光立国推進閣僚会議決定）
（2015年）		「日本再興戦略」改定2015（閣議決定）
	11月	安倍総理が第１回「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」を開催
平成28年	３月	「明日の日本を支える観光ビジョン」策定（明日の日本を支える観光ビジョン構想会議決定）
（2016年）	５月	「観光ビジョン実現プログラム2016」決定（観光立国推進閣僚会議決定）
平成29年	３月	観光立国推進基本計画改定（閣議決定）
（2017年）	５月	「観光ビジョン実現プログラム2017」決定（観光立国推進閣僚会議決定）
平成30年	６月	「観光ビジョン実現プログラム2018」決定（観光立国推進閣僚会議決定）
（2018年）		
令和元年	６月	「観光ビジョン実現プログラム2019」決定（観光立国推進閣僚会議決定）
（2019年）		

1-2　明日の日本を支える観光ビジョン（概要）

新潟県上越市 JOETSU CITY

課　　題

■我が国の豊富で多様な観光資源を、誇りを持って磨き上げ、その価値を日本人にも外国人にも分かりやすく伝えていくことが必要。

■観光の力で、地域の雇用を生み出し、人を育て、国際競争力のある生産性の高い観光産業へと変革していくことが必要。

■CIQや宿泊施設、通信・交通・決済など、受入環境整備を早急に進めることが必要。

■高齢者や障がい者なども含めた、すべての旅行者が「旅の喜び」を実感できるような社会を築いていくことが必要。

「観光先進国」への「３つの視点」と「１０の改革」

視　点　1
「観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に」

■**「魅力ある公的施設」を、ひろく国民、そして世界に開放**
・赤坂や京都の迎賓館などを大胆に公開・開放

■**「文化財」を、「保存優先」から観光客目線での「理解促進」、そして「活用」へ**
・2020年までに、文化財を核とする観光拠点を全国で200整備、わかりやすい多言語解説など1000事業を展開し、集中的に支援強化

■**「国立公園」を、世界水準の「ナショナルパーク」へ**
・2020年を目標に、全国５箇所の公園について民間の力も活かし、体験・活用型の空間へと集中改善

■**おもな観光地で「景観計画」をつくり、美しい街並みへ**
・2020年を目途に、原則として全都道府県・全国の半数の市区町村で「景観計画」を策定

視　点　2
「観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に」

■**古い規制を見直し、生産性を大切にする観光産業へ**
・60年以上経過した規制・制度の抜本見直し、ﾄｯﾌﾟﾚﾍﾞﾙの経営人材育成、民泊ﾙｰﾙの整備、宿泊業の生産性向上など、総合ﾊﾟｯｹｰｼﾞで推進・支援

■**あたらしい市場を開拓し、長期滞在と消費拡大を同時に実現**
・欧州・米国・豪州や富裕層などをﾀｰｹﾞｯﾄにしたﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ、戦略的なﾋﾞｻﾞ緩和などを実施
・MICE誘致・開催の支援体制を抜本的に改善
・首都圏におけるﾋﾞｼﾞﾈｽｼﾞｪｯﾄの受入環境改善

■**疲弊した温泉街や地方都市を、未来発想の経営で再生・活性化**
・2020年までに、世界水準DMOを全国100形成
・観光地再生・活性化ﾌｧﾝﾄﾞ、規制緩和などを駆使し、民間の力を最大限活用した安定的・継続的な「観光まちづくり」を実現

視　点　3
「すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に」

■**ソフトインフラを飛躍的に改善し、世界一快適な滞在を実現**
・世界最高水準の技術活用により、出入国審査の風景を一変
・ｽﾄﾚｽﾌﾘｰな通信・交通利用環境を実現
・ｷｬｯｼｭﾚｽ観光を実現

■**「地方創生回廊」を完備し、全国どこへでも快適な旅行を実現**
・「ｼﾞｬﾊﾟﾝ・ﾚｰﾙﾊﾟｽ」を訪日後でも購入可能化
・新幹線開業やｺﾝｾｯｼｮﾝ空港運営等と連動した、観光地へのｱｸｾｽ交通充実の実現

■**「働きかた」と「休みかた」を改革し、躍動感あふれる社会を実現**
・2020年までに、年次有給休暇取得率70%へ向上
・家族が休暇をとりやすい制度の導入、休暇取得の分散化による観光需要の平準化

出典：国土交通省北陸信越運輸局セミナー資料

1-3 明日の日本を支える観光ビジョン　目標値

新潟県上越市 JOETSU CITY

新たな目標への挑戦！

訪日外国人旅行者数	2020年：**4,000万人**（2015年の約2倍）※	2030年：**6,000万人**（2015年の約3倍）※
訪日外国人旅行消費額	2020年：**8兆円**（2015年の2倍超）※	2030年：**15兆円**（2015年の4倍超）※
地方部での外国人延べ宿泊者数	2020年：**7,000万人泊**（2015年の3倍弱）※	2030年：**1億3,000万人泊**（2015年の5倍超）※
外国人リピーター数	2020年：**2,400万人**（2015年の約2倍）※	2030年：**3,600万人**（2015年の約3倍）※
日本人国内旅行消費額	2020年：**21兆円**（最近5年間の平均から約5%増）※	2030年：**22兆円**（最近5年間の平均から約10%増）※

※（）内は観光ビジョン策定時である2015年時点との比較

（参考）安倍内閣６年間の成果

戦略的なビザ緩和、免税制度の拡充、出入国管理体制の充実、航空ネットワーク拡大など、**大胆な「改革」**を断行。

	（2012年）		（2018年）
・**訪日外国人旅行者数**は、**約3.7倍増**の**3,119万人**に	836万人	⇒	3,119万人
・**訪日外国人旅行消費額**は、**約4.2倍増**の**４．５兆円**に	１兆846億円	⇒	4兆5,189億円

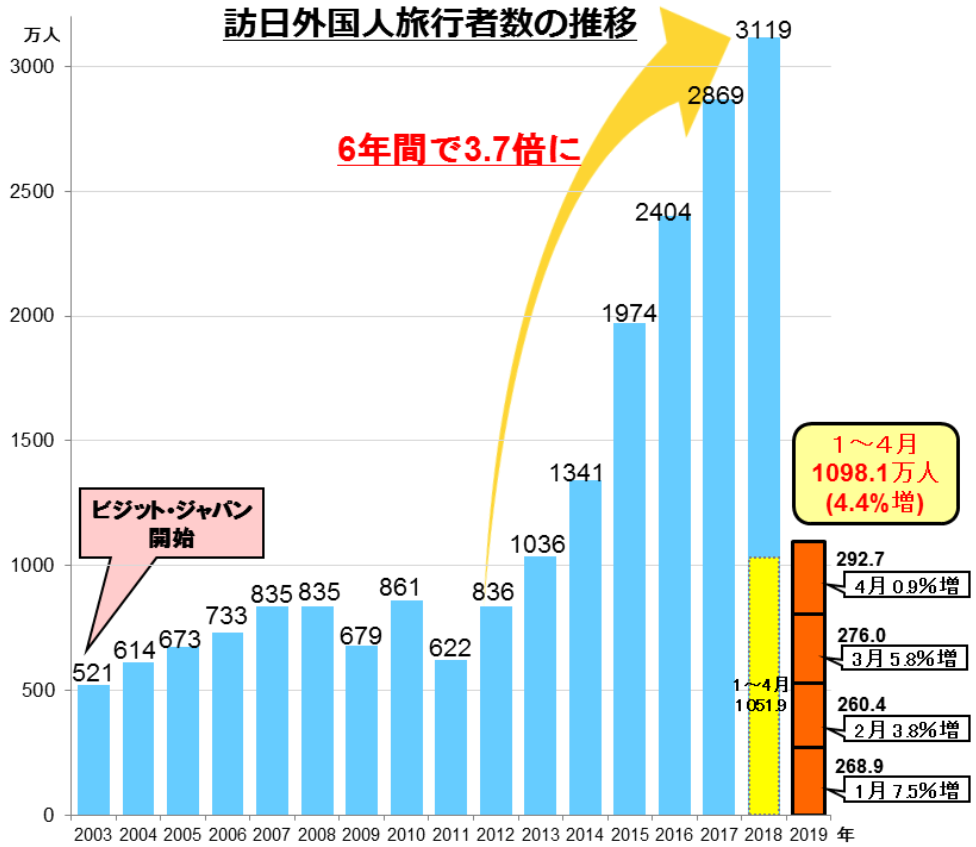
出典：国土交通省北陸信越運輸局セミナー資料

1-4 訪日外国人旅行者数の推移

新潟県上越市 JOETSU CITY

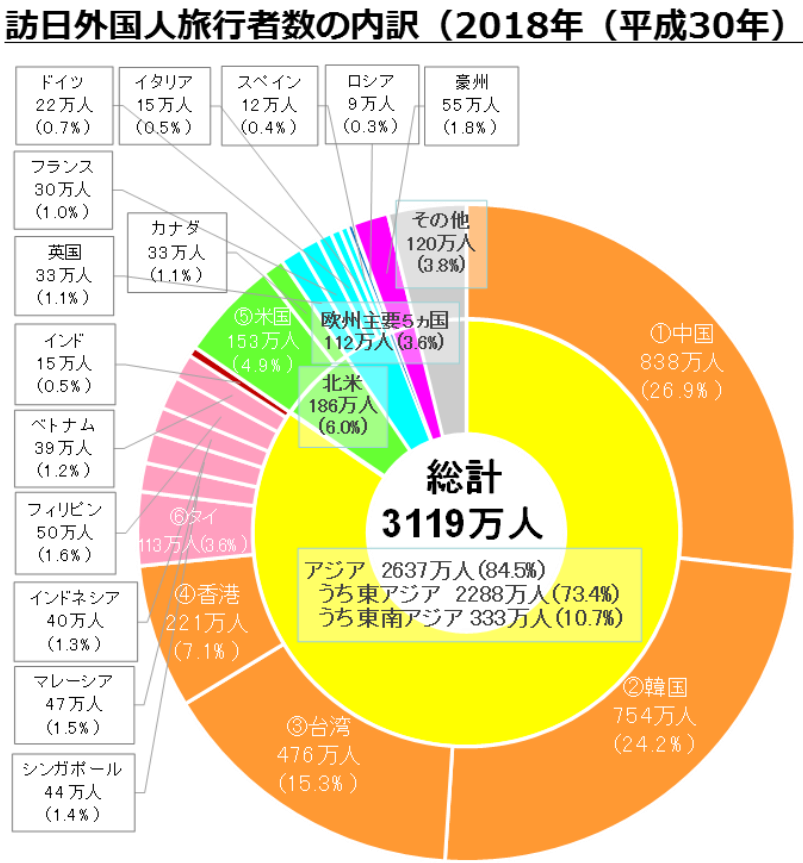
○ 2018年（平成30年）の訪日外国人旅行者数は、3,119万人（対前年比8.7%増）と初めて3,000万人を突破し、過去最高を記録した。（外国人旅行者受入数：世界で11位、アジアで３位に相当）

○ 訪日外国人旅行者数の内訳は、アジア全体で2,637万人（全体の84.5%）となった。
また、市場別では中国で800万人を、米国で150万人を、タイで100万人をそれぞれ初めて突破した。



出典：日本政府観光局(JNTO)

注）2017年以前の値は確定値、2018年、2019年1月～2月の値は暫定値、2019年3月～4月の値は推計値、%は対前年同月比



資料：日本政府観光局（ＪＮＴＯ）資料に基づき観光庁作成
注１：（ ）内は、訪日外国人旅行者数全体に対するシェア
注2：「その他」には、アジア、欧州等各地域の国であっても記載のない国･地域が含まれる。

出典：国土交通省北陸信越運輸局セミナー資料

1-5 訪日外国人旅行消費額(2018年)

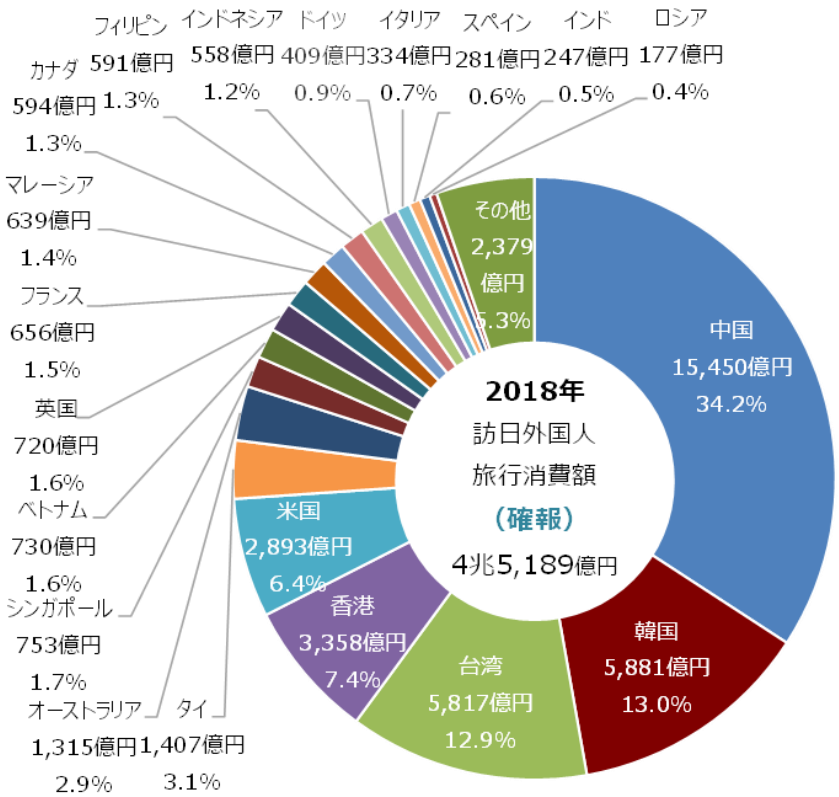
○ 2018年の訪日外国人旅行消費額は、過去最高の4兆5,189億円。2012年（１．１兆円）以降７年連続対前年増を継続。

○ 国籍・地域別に旅行消費額を見ると、中国が1兆5,450億円（構成比34.2%）と最も大きい。次いで、韓国5,881億円（同13.0%）、台湾5,817億円（同12.9%）、香港3,358億円（同7.4%）、米国2,893億円（同6.4%）の順であり、これら上位5カ国・地域で全体の73.9%を占める。

訪日外国人旅行消費額の推移

年	訪日外国人旅行消費額
2012年（平成24年）	1兆846億円
2013年（平成25年）	1兆4,167億円
2014年（平成26年）	2兆278億円
2015年（平成27年）	3兆4,771億円
2016年（平成28年）	3兆7,476億円
2017年（平成29年）	4兆4,162億円
2018年（平成30年）	**4兆5,189億円**

国籍・地域別の訪日外国人旅行消費額と構成比



資料：訪日外国人消費動向調査（観光庁）
注1）従来は空港を利用する旅客を中心に調査を行っていたが、短期滞在の傾向があるクルーズ客の急増を踏まえ、2018年からこうした旅客を対象とした調査も行い、調査結果に反映したところ。従来ベースの推計方法で2018年の旅行消費額を推計すると、4兆8千億円となる。
注2）パーセンテージは、訪日外国人旅行消費額全体に対する割合。

出典：国土交通省北陸信越運輸局セミナー資料

1-6 旅行動態の変化の状況①

新潟県上越市 JOETSU CITY

団体旅行（パッケージツアー）から個人旅行（FIT）への移行

個人旅行手配の割合

2012年：60.8%　2017年：76.2%　⇒ 15.4ポイント増

（参考）中国 28.5%　61.8%　⇒ 33.3ポイント増
香港 70.8%　90.6%　⇒ 19.8ポイント増

スマートフォンを最大限活用した旅行スタイルへの変化

日本滞在中に役に立った旅行情報源としてスマートフォンと回答した割合（複数回答）

2012年：23.5%　2017年：69.9%　⇒ 46.4ポイント増

都市部から地方部への観光の広がり

地方部における外国人延べ宿泊者数

2012年：855万人泊　2018年：3,636万人泊　2020年：7,000万人泊（目標）

4.3倍

（参考）
都市部　1,776万人泊　5,223万人泊

2.9倍

リピーター数の増加

リピーター数

2012年：528万人　2018年：1,944万人　2020年：2,400万人（目標）

3.7倍

【出典】個人旅行手配の割合・日本滞在中に役立った旅行情報源：訪日外国人消費動向調査（観光庁）/外国人延べ宿泊者数：宿泊旅行統計調査（観光庁）/リピーター数：訪日外国人旅行者数（日本政府観光局）,訪日外国人消費動向調査（観光庁）より観光庁作成

※この資料中の2018年の値は速報値

出典：国土交通省北陸信越運輸局セミナー資料

1-7 旅行動態の変化の状況②

新潟県上越市
JOETSU CITY

モノ消費からコト消費への移行

娯楽サービス費購入率

2012年：21.5%　2017年：35.7%　⇒ **14.2ポイント増**

外国人観光客の消費支出に占める娯楽サービス費の割合

2012年：1.1%　2018年：3.8%

（参考）諸外国の外国人観光客の消費支出に占める娯楽サービス費の割合
アメリカ（2015）：12.2%　フランス（2015）：11.1%
カナダ（2016）：10.9%

1人1回当たりの旅行支出

訪日外国人1人1回当たり旅行支出

2012年：13.0万円　2018年：15.3万円　2020年：20.0万円（※）

※2020年4,000万人、旅行消費額8兆円目標の達成のためには、1人1回当たり旅行支出20万円が必要

滞在日数

平均泊数

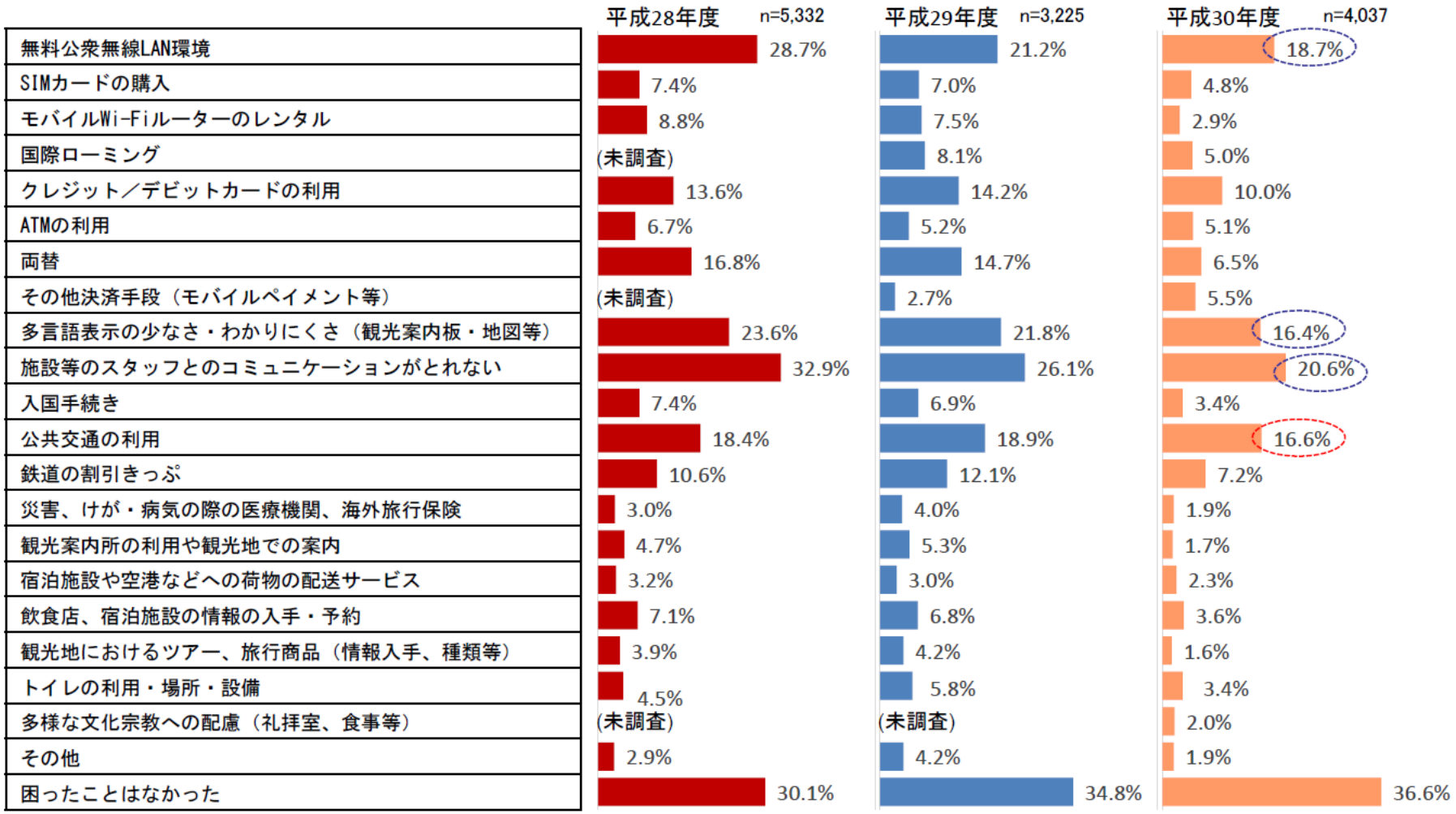
2012年：12.3泊　2018年：9.1泊

【出典】娯楽サービス費購入率・訪日外国人1人1回当たり旅行支出・平均泊数：訪日外国人消費動向調査（観光庁）
外国人観光客の消費支出に占める娯楽サービス費の割合：TSA（観光庁）・Tourism Trends and Policies 2016(OECD)より観光庁作成
この資料中の2018年の値は速報値

出典：国土交通省北陸信越運輸局セミナー資料

1-8 訪日旅行中に困ったことの3か年比較

- ○ 平成30年度調査ではほぼ全ての項目で改善が見られ、「困ったことはなかった」の回答も36.6%となった。
- ○ 「施設等のスタッフとのコミュニケーションがとれない」が最も多く20.6%となり、「無料公衆無線LAN環境」「公共交通の利用」「多言語表示の少なさ・わかりにくさ」と続いた。
- ○ 平成29年度と30年度を比較すると、「その他決済手段」の困った比率が唯一増加した。



出典：訪日外国人旅行者の受入環境整備に関するアンケート結果（観光庁）

1-9 日本人国内延べ旅行者数、国内旅行1人1回当たりの旅行単価

○ 2018年の日本人国内延べ旅行者数は5億6,178万人（前年比13.2%減）、うち宿泊旅行が2億9,105万人（前年比10.0%減）、日帰り旅行が2億7,073万人（前年比16.5%減）となった。

○ 2018年の日本人国内旅行の1人1回当たり旅行単価は36,462円/人（前年比11.8%増）、宿泊の有無で見ると、宿泊旅行が54,300円/人（前年比9.2%増）、日帰り旅行が17,285円/人（前年比11.3%増）となった。

■日本人国内延べ旅行者数及び前年比（確報値）　単位：万人

国内旅行全体			うち宿泊旅行		うち日帰り旅行	
	延べ旅行者数	前年比	延べ旅行者数	前年比	延べ旅行者数	前年比
2011年	61,253	-3.0%	31,356	-1.3%	29,896	-4.8%
2012年	61,275	+0.0%	31,555	+0.6%	29,720	-0.6%
2013年	63,095	+3.0%	32,042	+1.5%	31,053	+4.5%
2014年	59,522	-5.7%	29,734	-7.2%	29,788	-4.1%
2015年	60,472	+1.6%	31,299	+5.3%	29,173	-2.1%
2016年	64,108	+6.0%	32,566	+4.0%	31,542	+8.1%
2017年	64,751	+1.0%	32,333	-0.7%	32,418	+2.8%
2018年	56,178	-13.2%	29,105	-10.0%	27,073	-16.5%

■日本人国内旅行の１人１回当たりの旅行単価及び前年比（確報値）
単位：円／人

国内旅行全体			うち宿泊旅行		うち日帰り旅行	
	旅行単価	前年比	旅行単価	前年比	旅行単価	前年比
2011年	32,222	-0.4%	47,149	-2.6%	16,567	+2.8%
2012年	31,695	-1.6%	47,444	+0.6%	14,972	-9.6%
2013年	31,995	+0.9%	48,094	+1.4%	15,383	+2.7%
2014年	30,947	-3.3%	46,717	-2.9%	15,206	-1.2%
2015年	33,750	+9.1%	50,520	+8.1%	15,758	+3.6%
2016年	32,687	-3.2%	49,234	-2.5%	15,602	-1.0%
2017年	32,606	-0.2%	49,732	+1.0%	15,526	-0.5%
2018年	36,462	+11.8%	54,300	+9.2%	17,285	+11.3%

出典：旅行･観光消費動向調査2018年年間値（確報）（観光庁）

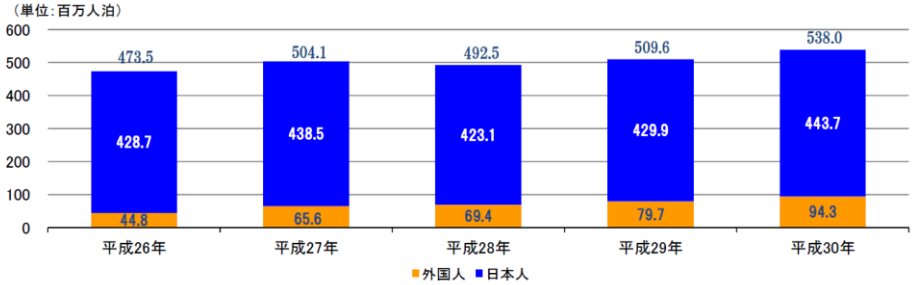
1-10 延べ宿泊者数および客室稼働率の推移

新潟県上越市
JOETSU CITY

○ 延べ宿泊者数（全体）は、5億3,800万人泊（前年比+5.6%）であった。日本人延べ宿泊者数は、4億4,373万人泊（前年比+3.2%）、外国人延べ宿泊者数は、9,428万人泊（前年比+18.3%）であった。

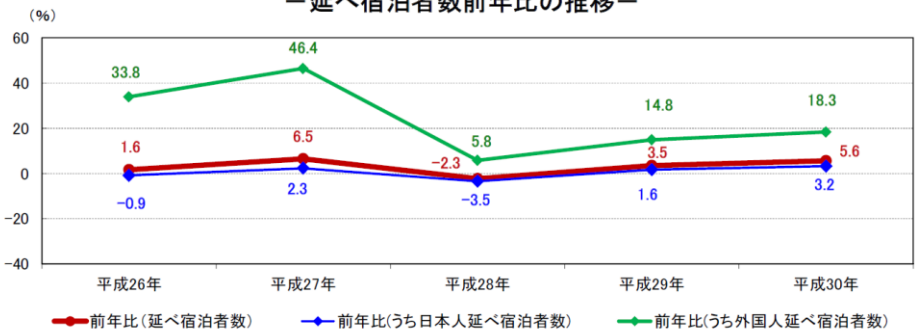
○ 客室稼働率は全体で61.2%であった。施設タイプ別では、シティホテル（80.2%）、ビジネスホテル（75.5%）、リゾートホテル（58.3%）、旅館（38.8%）ともに、平成22年の調査対象拡充以降の最高値となった。

－年別・延べ宿泊者数推移（H26～H30）－

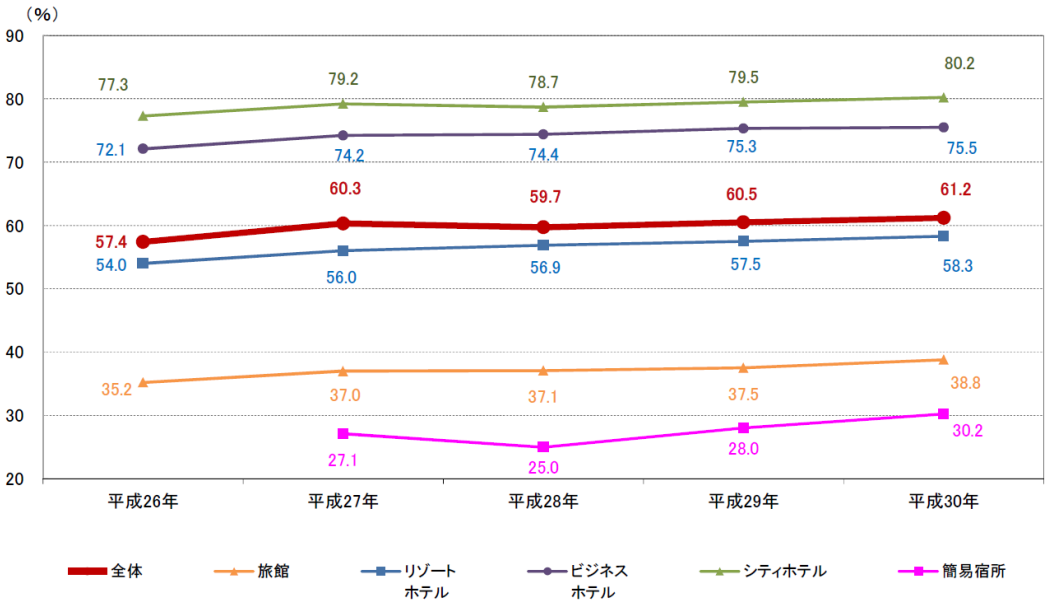


※上表の青字にした数値は、日本人及び外国人の延べ宿泊者数を合計した全体の数値である。

－延べ宿泊者数前年比の推移－



－施設タイプ別客室稼働率の推移－



出典：宿泊旅行統計調査平成30年年間値（確定値）（観光庁）

1-11　旅行形態に着目した旅行市場区分シェア(2017年)

○　旅行内容と旅行形態（団体・個人）に着目し、６つの市場区分についてのシェアを算出すると、「個人で実施する観光旅行」が最も大きなシェアを占めている。国内・海外旅行ともに、全体の約5割が「個人で実施する観光旅行」である。これに次ぐのは、国内・海外旅行ともに「出張・業務」で、その次に「帰省や家事のための旅行」となっている。

○　「個人旅行」と「団体旅行」の旅行形態別シェアについては、「国内旅行、海外旅行ともに個人旅行が約8割と、個人旅行のシェアが高い。

■旅行形態に着目した旅行市場区分シェア（2017年）

単位：(%)

市場区分	定義	国内旅行	海外旅行
個人で実施する観光旅行	個人で実施する観光旅行。スポーツ旅行。旅行会社のパック旅行に参加した場合も含める。	52.7	53.9
帰省や家事のための旅行	帰省や冠婚葬祭関連の旅行。（帰省ついでに行った観光旅行は観光・レクリエーション旅行）	13.9	9.6
組織が募集する団体旅行	町内、農協、郵便局、信金、宗教団体、サークルなどが募集する旅行。	5.8	8.0
出張や業務旅行	打合せや会議、視察目的の旅行。	17.0	15.3
会社がらみの団体旅行	職場旅行や招待、報奨旅行。団体で行動する旅行。	5.1	6.9
その他の旅行	上記のいずれにもあてはまらない旅行。	5.5	6.4

資料：(公財) 日本交通公社「JTBF旅行実態調査」

■旅行形態別にみるシェア（2017年）

単位：(%)

旅行形態	市場区分	国内旅行	海外旅行
個人旅行	個人で実施する観光旅行	83.5	78.8
	帰省や家事のための旅行		
	出張や業務旅行		
団体旅行	組織が募集する団体旅行	10.9	14.8
	会社がらみの団体旅行		
その他の旅行		5.5	6.4

資料：(公財) 日本交通公社「JTBF旅行実態調査」

出典：旅行年報2018（公益財団法人日本交通公社）

1-12 旅行先での交通手段

○ 全体的に「自家用車」を利用した旅行の割合が高い。また、「列車」「路線バス」「タクシー・ハイヤー」などの公共交通機関を利用する割合が多い一方、「貸切バス・定期観光バス」「観光客向けの巡回バスなど」の利用割合は低い。

○ 「家族旅行」「夫婦・カップル旅行」「友人旅行」「ひとり旅」の区分において、同行者やライフステージ別に見てみると、利用される交通手段がそれぞれ異なることが分かる。

■マーケットセグメント（同行者×ライフステージ）別の旅行先での主な交通手段（複数回答）

（単位：%）

マーケットセグメント ＼ 旅行先での主な交通手段	自家用車	列車	レンタカー	路線バス	タクシー・ハイヤー	飛行機	貸切バス・定期観光バス	観光客向けの巡回バスなど	船（フェリー、観光船、屋形船など）	レンタサイクル	その他	交通機関は利用しなかった	サンプル数
全体	36.4	28.6	13.7	12.7	9.8	8.8	7.4	4.5	3.1	1.3	1.3	7.3	(9692)
前年	*35.7*	*29.3*	*12.4*	*12.9*	*8.9*	*8.4*	*7.6*	*4.5*	*2.4*	*1.1*	*1.7*	*8.0*	*(9823)*
家族旅行	48.1	22.8	15.6	10.8	9.2	9.9	5.0	5.1	3.7	1.5	0.7	7.1	(2500)
乳幼児の子どもと一緒の家族旅行（小中高生を含まない）	60.1	17.4	16.6	7.7	7.0	11.8	3.1	4.8	2.4	1.1	0.7	7.0	(513)
小中高生の子どもと一緒の家族旅行（乳幼児連れも含む）	50.0	22.8	14.8	10.1	9.6	11.4	3.8	5.1	4.9	1.6	0.6	7.3	(1026)
18歳以上のみの家族旅行	39.8	25.6	15.8	13.3	10.0	7.2	7.3	5.2	3.0	1.6	0.9	6.9	(962)
※３世代家族旅行	48.9	22.0	21.2	10.9	12.6	14.2	5.8	7.0	5.6	3.5	0.7	7.2	(752)
夫婦・カップル旅行	43.8	22.9	14.0	9.6	9.1	7.9	6.9	4.4	2.9	1.2	1.1	6.6	(3322)
カップルでの旅行	40.2	31.7	16.9	12.4	11.3	8.2	3.6	4.2	3.3	2.0	0.3	4.7	(740)
夫婦での旅行(子どもなし)	43.9	22.6	17.7	8.7	8.0	8.3	4.5	3.5	2.9	1.7	1.4	7.0	(933)
子育て中の夫婦での旅行（末子が18歳未満）	37.6	25.7	16.0	12.1	11.3	16.6	5.0	6.3	4.3	1.6	0.0	8.9	(161)
子育て後の夫婦での旅行（末子が18歳以上）	46.1	18.4	10.1	8.5	8.5	6.7	10.4	4.8	2.5	0.5	1.4	6.9	(1488)

（単位：%）

マーケットセグメント ＼ 旅行先での主な交通手段	自家用車	列車	レンタカー	路線バス	タクシー・ハイヤー	飛行機	貸切バス・定期観光バス	観光客向けの巡回バスなど	船（フェリー、観光船、屋形船など）	レンタサイクル	その他	交通機関は利用しなかった	サンプル数
友人旅行	27.8	28.9	16.0	13.4	10.8	7.4	12.5	4.8	3.0	1.1	1.1	8.6	(1985)
未婚男性による友人旅行	30.5	32.9	24.6	11.7	8.7	7.8	6.7	3.8	3.7	1.9	0.4	8.7	(442)
既婚男性による友人旅行（子どもなし）	40.2	21.3	17.7	13.2	14.9	16.4	13.0	5.4	2.8	1.9	0.0	5.2	(88)
子育て中の男性による友人旅行（末子が18歳未満）	35.5	21.9	22.6	6.2	10.9	5.3	12.3	4.5	0.8	3.6	0.0	4.8	(120)
子育て後の男性による友人旅行（末子が18歳以上）	32.0	20.9	16.0	7.6	9.0	7.3	16.7	3.5	3.0	0.0	1.3	7.9	(285)
未婚女性による友人旅行	22.0	43.3	16.6	21.1	10.0	7.6	6.9	4.9	2.7	1.2	1.2	9.0	(424)
既婚女性による友人旅行（子どもなし）	28.3	27.1	13.0	11.8	14.2	9.0	6.6	2.7	0.8	0.0	1.9	10.2	(133)
子育て中の女性による友人旅行（末子が18歳未満）	24.4	36.5	25.8	17.8	29.6	3.0	2.5	4.7	0.0	0.0	0.0	4.2	(38)
子育て後の女性による友人旅行（末子が18歳以上）	23.6	19.7	5.2	13.6	11.4	5.4	23.2	7.2	4.2	0.4	1.9	10.3	(454)
ひとり旅	15.3	49.6	8.1	21.0	10.4	11.1	5.1	3.3	2.3	1.6	2.6	6.6	(1688)
男性のひとり旅	16.9	49.7	10.7	19.3	10.4	11.2	3.5	2.8	2.2	1.6	2.4	7.2	(1121)
女性のひとり旅	12.3	49.3	3.1	24.4	10.6	11.0	8.2	4.3	2.6	1.6	3.1	5.5	(568)

※3世代家族旅行は、子どもの年齢にかかわらず3世代で行った旅行であり、家族旅行の3セグメントと重複する。

全体の比率より15ポイント以上大きい値　全体の比率より10ポイント以上大きい値　全体の比率より5ポイント以上大きい値

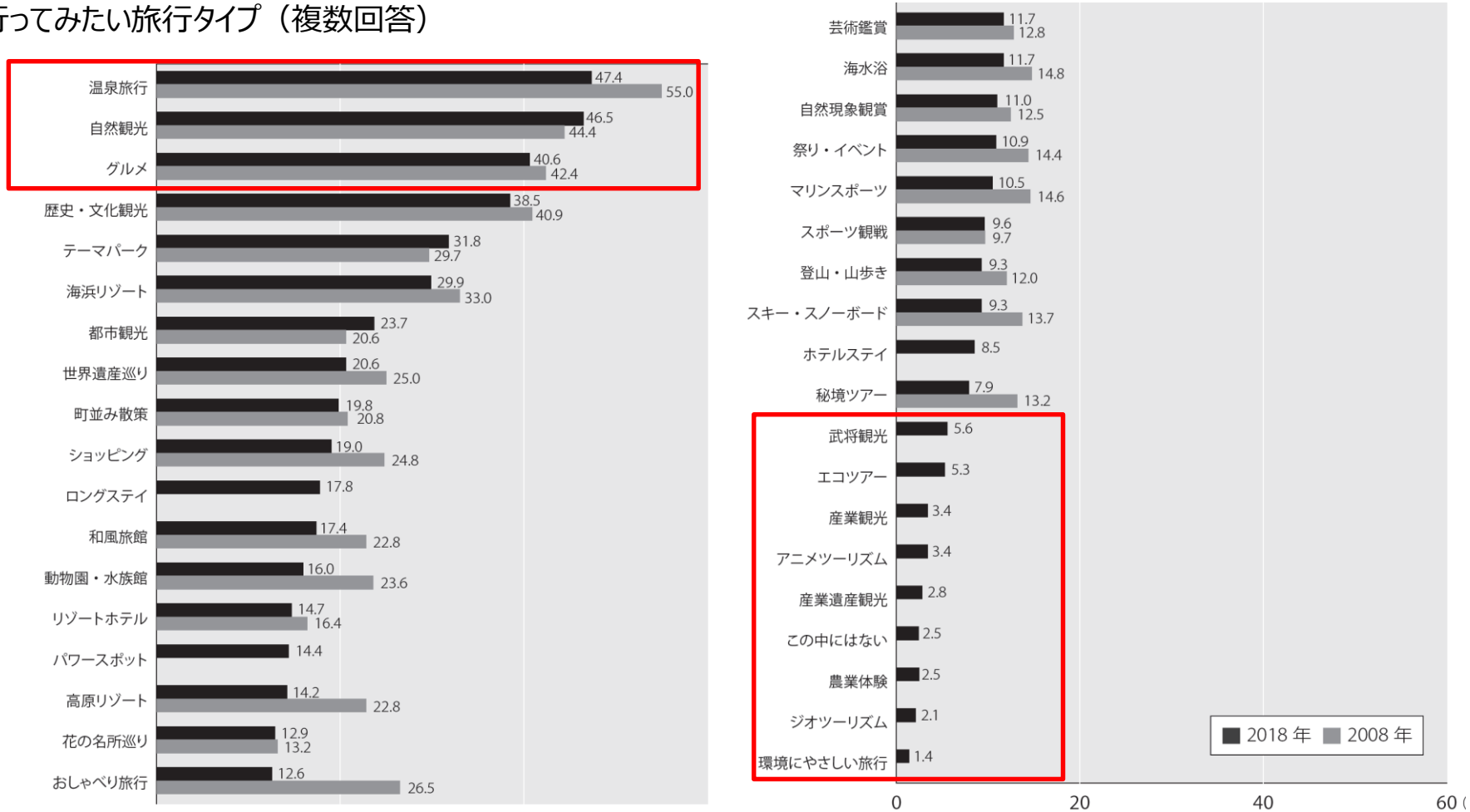
資料：（公財）日本交通公社「JTBF旅行実態調査」

出典：旅行年報2018（公益財団法人日本交通公社）

1-13 行ってみたい旅行タイプ

○ 行ってみたい旅行タイプは、「温泉旅行」を筆頭に「自然観光」「グルメ」「歴史・文化観光」の順となった。
○ 2008年と2018年と比べると、「武将観光」「アニメツーリズム」「農業体験」などの新しいニーズも出てきている。

■行ってみたい旅行タイプ（複数回答）



資料：（公財）日本交通公社「JTBF旅行意識調査

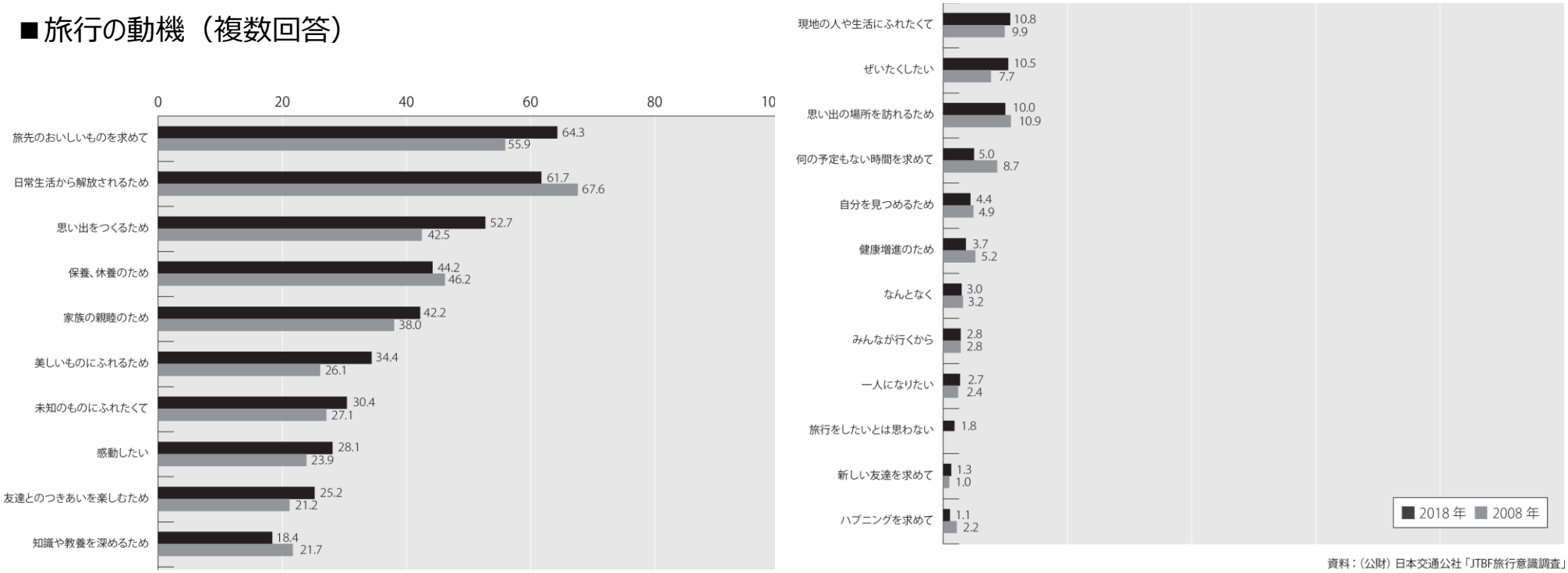
出典：旅行年報2018（公益財団法人日本交通公社）

1-14 旅行の動機

○ 旅行の動機は、「旅先のおいしいものを求めて」を筆頭に「日常生活から解放されるため」「思い出を作るため」「保養、休養のため」となった。

○ 2008年と2018年と比べると、「日常生活から解放されるため」「保養、休養のため」のように癒しを求める理由が減少した一方で、「旅先のおいしいものを求めて」「思い出を作るため」「家族の親睦のため」などが増加した。

■旅行の動機（複数回答）



出典：旅行年報2018（公益財団法人日本交通公社）

２．新潟県及び上越市の概況

2-1　新潟県と上越市の観光入込客数(年推移)

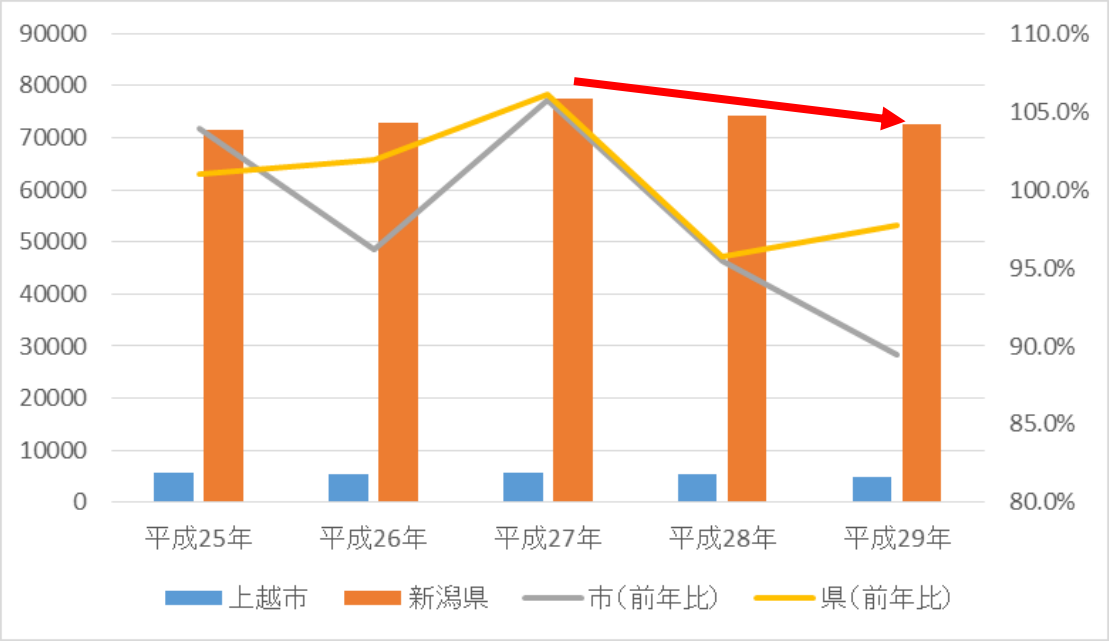
新潟県上越市
JOETSU CITY

- ○　過去５年間の新潟県及び上越市の入込数の推移を見ると、平成25年から平成27年は増加傾向にあったが、近年は減少傾向にある。
- ○　新潟県の入込数については平成27年をピークに毎年約200万人程度減少している状況である。
- ○　上越市の入込数は、主に水族博物館のリニューアルに伴う閉館の影響等により、大きく減少した。

■県との比較　年間入込客数の推移

（単位：千人）

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
新潟県	71602	72987	77447	74172	72478
上越市	5687	5469	5782	5520	4939
県（前年比）	101.0%	101.9%	106.1%	95.8%	97.7%
市（前年比）	103.9%	96.2%	105.7%	95.5%	89.5%



※新潟県観光入込客統計調査を基に上越市で作成

2-2　新潟県と上越市の観光入込客数（月別推移）

新潟県上越市
JOETSU CITY

○　平成29年の新潟県と上越市の入込数を月別で見ると、新潟県は８月が最も入込数が多く、12,673千人（17.9%）であり、２番目に多かったのは７月で7,361千人（10.4%）であった。

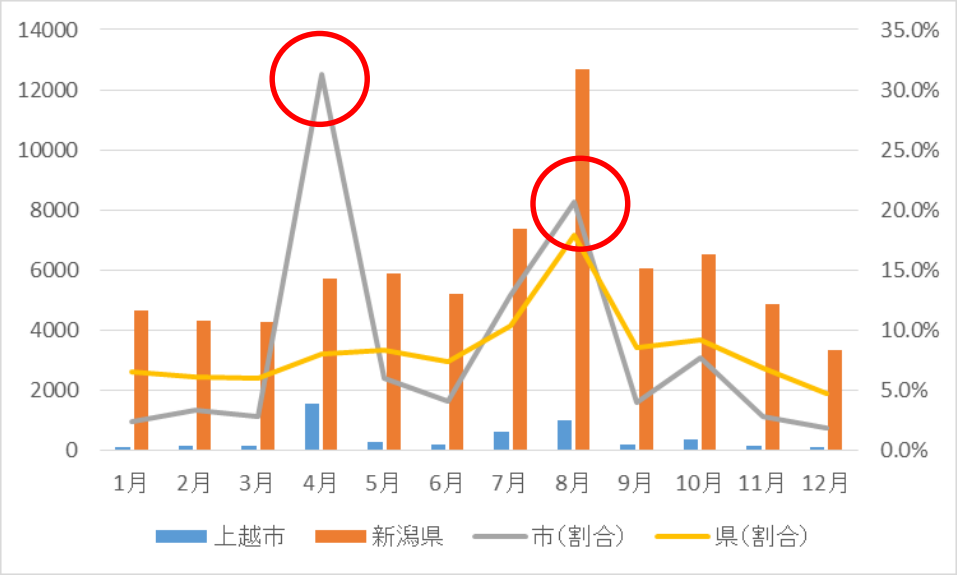
○　一方、上越市は、４月の入込が最も多く1,544千人（31.3%）であり、２番目に多かったのは８月で1,021千人（20.7%）であった。

○　新潟県で一番入込数が多い８月は全体の２割ほどであり、２番目に入込数が多い７月と合わせても全体の３割弱ほどであるが、上越市で一番入込数が多い４月は全体の３割であり、２番目に入込数の多い８月と合わせると年間の入込数の約半数を占めている。

■県との比較　月別入込客数の推移（平成29年）

（単位：千人）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
新潟県	4647	4312	4263	5715	5883	5228	7361	12673	6043	6509	4887	3340
上越市	116	165	140	1544	297	203	640	1021	195	383	140	94
県（割合）	6.6%	6.1%	6.0%	8.1%	8.3%	7.4%	10.4%	17.9%	8.5%	9.2%	6.9%	4.7%
市（割合）	2.3%	3.3%	2.8%	31.3%	6.0%	4.1%	13.0%	20.7%	3.9%	7.8%	2.8%	1.9%



※新潟県観光入込客統計調査を基に上越市で作成

2-3　上越市と新潟県の観光入込客数（目的別）

新潟県上越市
JOETSU CITY

○　平成29年の入込数を目的別に見ると、 新潟県、上越市共に「行祭事・イベント」が最も多く、新潟県は16,718千人（23.1%）、上越市は2,338千人（47.3%）であった。

○　新潟県では、「都市型観光」※が２番目に多く、16,299千人（22.5%）であり、次いで「スポーツ・レクリエーション」が多く、12,945千人（17.9%）であった。

○　上越市では、「スポーツ・レクリエーション」が２番目に多く、938千人（19.0%）であり、次いで「歴史・文化」が多く、653千人（13.2%）であった。

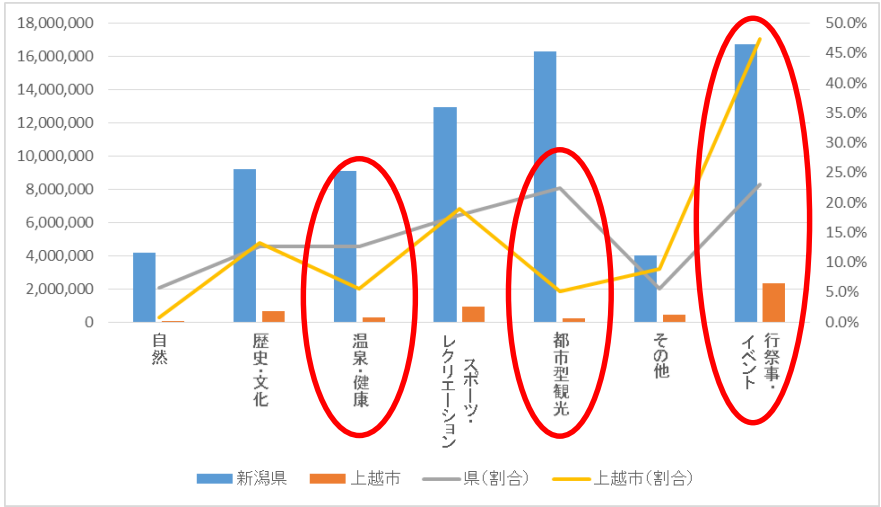
○　割合で比較すると、上越市は新潟県と比べ、「行祭事・イベント」の割合が突出して高く、「温泉・健康」及び「都市型観光」の割合が低いが、「歴史・文化」、「スポーツ・レクリエーション」は同程度の割合であった。

※「都市型観光」
…商業施設、直売所、物産館など

■目的別の観光入込客数（平成29年）

（単位：人）

	自然	歴史・文化	温泉・健康	スポーツ・レクリエーション	都市型観光	その他	行祭事・イベント	合計
新潟県	4,174,845	9,222,923	9,117,092	12,945,863	16,299,322	3,999,081	16,718,583	72,477,709
上越市	41,218	653,290	276,557	938,122	250,378	440,918	2,338,056	4,938,539
県（割合）	5.8%	12.7%	12.6%	17.9%	22.5%	5.5%	23.1%	100.0%
上越市（割合）	0.8%	13.2%	5.6%	19.0%	5.1%	8.9%	47.3%	100.0%

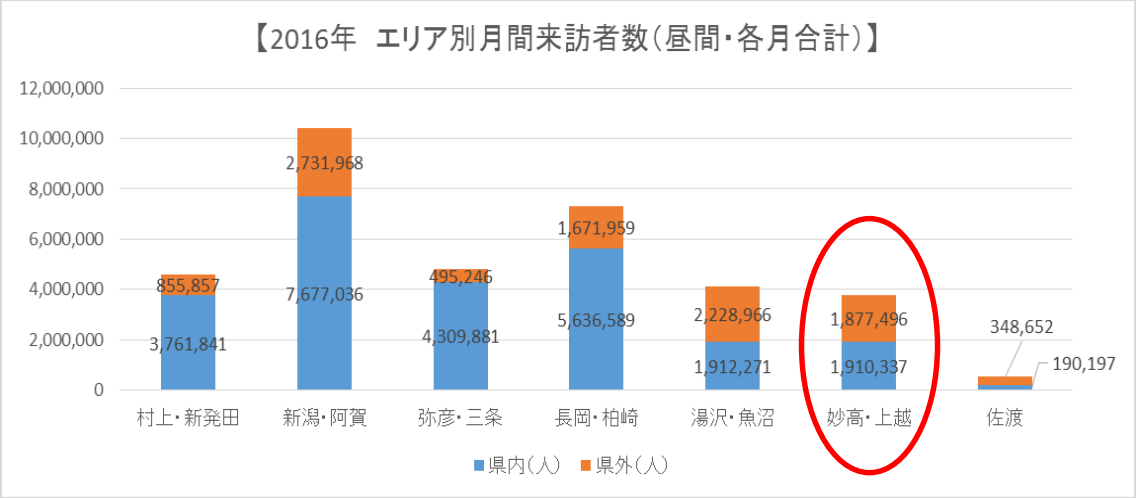


※新潟県観光入込客統計調査を基に上越市で作成

2-4　来訪者数の県内外比率（県内エリア別）

新潟県上越市
JOETSU CITY

○　来訪者数の県内外比率を県内エリア別で見ると、妙高・上越市エリアは、県内50.4%、県外49.6%であり、わずかに県内からの来訪者が多いが、県内、県外の来訪者の比率は半々である。
○　湯沢・魚沼エリアはわずかに県外の来訪者が多く、佐渡エリアは県外の来訪者が約６割を占めている。
○　一方、そのほかのエリアについては、県外来訪者より、県内来訪者の割合の方が多い。



エリア	県内（人）	県外（人）	合計（人）	県内割合	県外割合
村上・新発田	3,761,841	855,857	4,617,698	81.50%	18.50%
新潟・阿賀	7,677,036	2,731,968	10,409,004	73.80%	26.20%
弥彦・三条	4,309,881	495,246	4,805,127	89.70%	10.30%
長岡・柏崎	5,636,589	1,671,959	7,308,548	77.10%	22.90%
湯沢・魚沼	1,912,271	2,228,966	4,141,237	46.20%	53.80%
妙高・上越	1,910,337	1,877,496	3,787,833	50.40%	49.60%
佐渡	190,197	348,652	538,849	35.30%	64.70%

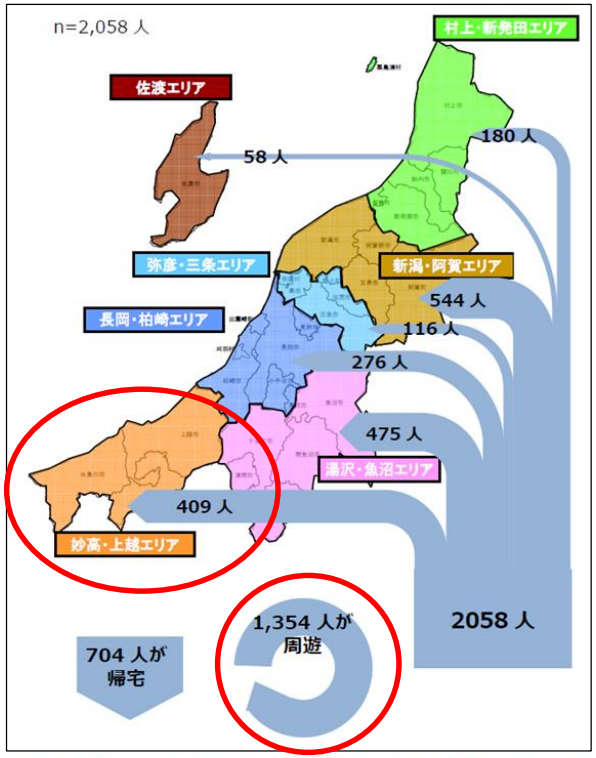
※国内約7,000万台/訪日外国人約400万台のドコモの携帯電話の運用データを活用し、ビッグデータ「モバイル空間統計」を用いて動向分析したもの。
※グラフは、取得対象エリアの2015年8月、11月、2016年2月、5月の月間来訪者数の合計を表記したもの。
※「県内」は、新潟県内の市町村からの来訪者。「県外」は新潟県外を居住地としているものを対象。
※妙高・上越エリアには、妙高市、上越市、糸魚川市が含まれる

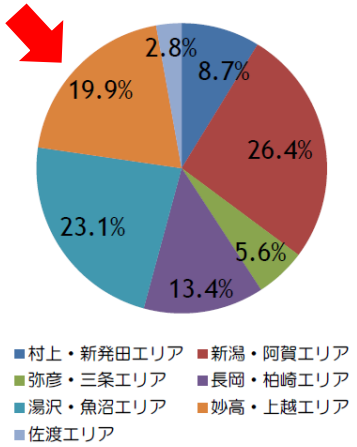
出典：ビッグデータを活用した交流人口動向分析2016（新潟県）

2-5 新潟県の県外観光客の周遊状況（エリア別）

- ○ 県外来訪者の周遊状況を見ると、新潟県に訪れた2,058人の来訪者のうち、半数以上の1,354人が周遊している。
- ○ 最初の来訪先として妙高・上越エリアへ409人が訪れており、県全体の19.9%を占めている。（県内３番目）
- ○ 県内への最初の来訪先としては、新潟・阿賀エリア、湯沢・魚沼エリア、妙高・上越エリアで全体の約70%を占めている。

■エリア別の県外観光客の周遊状況





※周遊状況は、2015年9月～2016年9月の期間で観光を目的に来訪した2,058人を対象に調査を実施。

村上・新発田エリア	新潟・阿賀エリア	弥彦・三条エリア	長岡・柏崎エリア	湯沢・魚沼エリア	妙高・上越エリア	佐渡エリア	合計
180	544	116	276	475	409	58	2,058

出典：ビッグデータを活用した交流人口動向分析2016（新潟県）

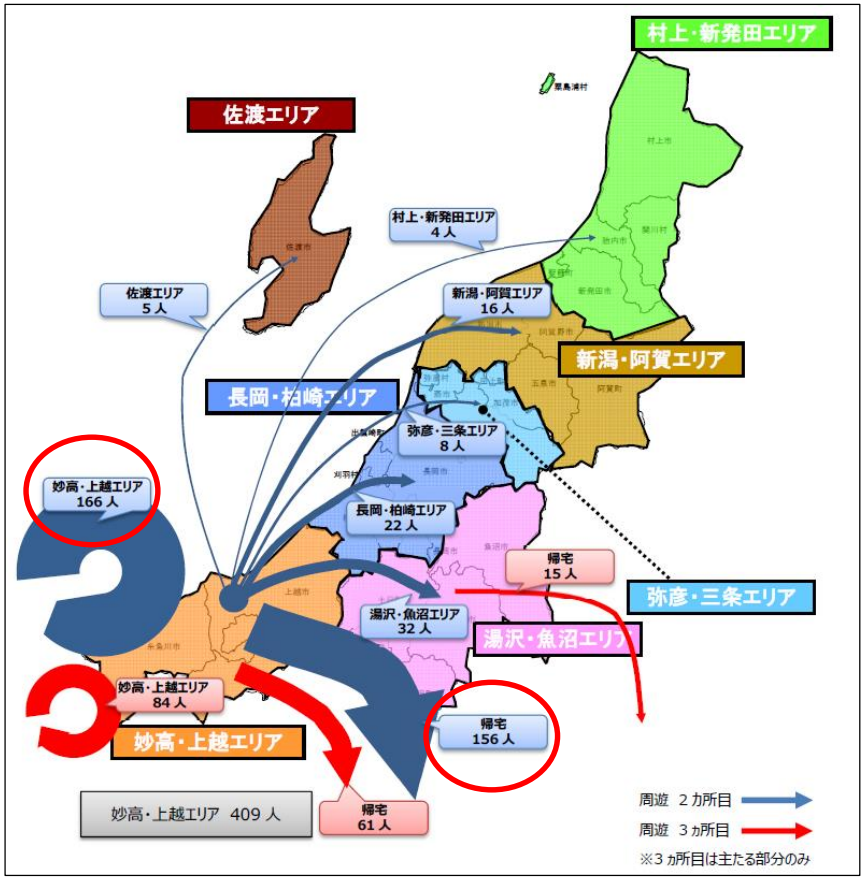
2-6 新潟県の県外観光客の周遊状況（上越エリア）

新潟県上越市
JOETSU CITY

○ 県外から妙高・上越エリアへ最初に来訪した409人の内、約38%の156人が妙高・上越エリアの一カ所だけのみを訪問し、帰宅している。

○ ２カ所目を周遊した253人の内、約66%の166人は同一エリアの妙高・上越エリアを周遊しており、近隣含む他エリアへの周遊比率が低い。

・エリア別の県外観光客の周遊状況



２カ所目人数

村上・新発田エリア	4
新潟・阿賀エリア	16
弥彦・三条エリア	8
長岡・柏崎エリア	22
湯沢・魚沼エリア	32
妙高・上越エリア	166
佐渡エリア	5
帰宅	156

３カ所目人数

村上・新発田エリア	新潟・阿賀エリア	弥彦・三条エリア	長岡・柏崎エリア	湯沢・魚沼エリア	妙高・上越エリア	佐渡エリア	帰宅
1	1	2	5	8	0	0	15

村上・新発田エリア	新潟・阿賀エリア	弥彦・三条エリア	長岡・柏崎エリア	湯沢・魚沼エリア	妙高・上越エリア	佐渡エリア	帰宅
3	3	1	9	5	84	0	61

出典：ビッグデータを活用した交流人口動向分析2016（新潟県）